

未来を開く

長井市立長井北中学校 No44 令和6年3月16日

第42回卒業証書授与式を挙

【校長式辞から】（抜粋）

日差しの暖かさが増し、春の息吹がひしひしと感じられる今日この頃、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、第42回長井市立長井北中学校卒業証書授与式を挙行できますこと、誠に喜ばしく、心より御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。これからは、初めて自分で決めた道を進むこととなります。夢の実現に向けて、更にお子様を見守り、支えていただければと思います。これまでの三年間、本校の教育にお寄せいただきましたご理解とご協力に、厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。義務教育の課程を修了し、これからは、自分で決めた道を自らの意志と責任で進まなければなりません。皆さんがこの日を迎えることができたのも、皆さんの家族の愛情と支えがあったからです。卒業にあたり、感謝の気持ちを伝えましたか。まだの人は、必ず伝えてください。どんな言葉であっても、家族にとっては、何にも代え難いうれしいものとなるはずですよ。

卒業証書を受け取る皆さんの顔を見ていると、この一年間の皆さんの活躍が脳裏に浮かんで止みません。

「樹（いつき）～進取果敢～」をスローガンに取り組んだ生徒会活動。「自分達から」という主体性を重視し、継続して活動してきました。日々の学校生活の向上の取組はもちろん、自分達にできることを常に考え、社会の出来事にも目を向け、即行動に移す姿がありました。また、運動

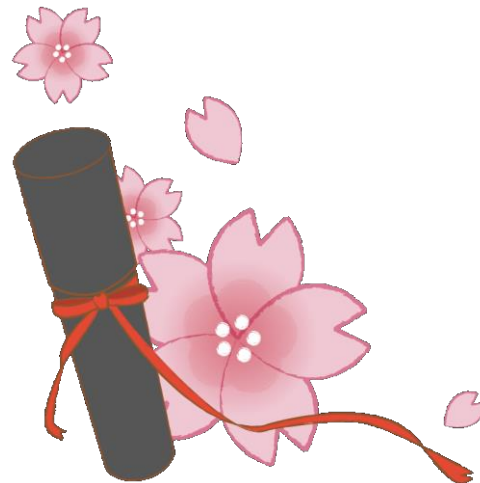
会では、厳しい暑さが続き、体育館での練習や本番の実施など急な変更を余儀なくされた中でも、柔軟に対応し、できることを工夫し、感動と達成感に包まれた運動会を創り上げることができました。これらの姿には、北中のリーダーたる学年としての頼もしさがありました。

更に、今年度は開校以来41年間変わってなかった校則の一部を改正するという大きなことを成し遂げました。多様性と共生という観点で話し合いを重ね、様々な考え方を受け止め、折り合いをつけ、校則改正に導き、新たな北中の礎を築きました。その過程で確認された思いや願いは、一・二年生、これから先の後輩へと確実に受け継がれることと思います。

仲間とともに切磋琢磨し、励まし合った部活動。皆さんのあきらめない直向きな姿は、応援している他の北中生、保護者の皆さんに感動と元気を与えてくれました。その中心には、模範としてのあるべき姿を見せ続けてくれた卒業生の皆さんがいました。その姿を目に焼き付けてきた一・二年生は、きっとその思いを受け継ぎ、北中の更なる発展のために力を尽くしてくれるものと思います。

新たな道を歩み始める皆さんに、二つの励ましの言葉を送ります。

一つ目は、「学び続ける」ことです。今、世の中は加速度的な速さで変化し、模範となるモデルや正解が明確に見出せない時代です。近い将来、そんな社会の中心を担う皆さんは、それぞれの場所や立場で、自分なりの価値を見つけたり、目の前の問題を解決したりし、生きていかなければなりません。その原動力となるのは、皆さんが今学んでいることですし、皆さん一人一人の力が今後必要なのです。その力を付けるために、生涯に渡って学び続けることを大切にしてほしいと思います。学んだことは自分の中にずっと蓄



積されます。学んだことの多い方が、人生の選択の幅や問題解決の可能性が広がります。何より、人生がより豊かになります。

二つ目は、「誠実と感謝を胸に刻む」ことです。卒業生の皆さんは自分以外の85名の仲間と、時にはぶつかり、共感し、時には距離を遠くしたり、近くしたりしながら、成長してきたと思います。その過程の中で、誠実に仲間に向き合い、お互いの信頼関係を築いてきたと思います。信頼関係を築くために他の人に、物事に誠実に向き合う生き方をしてほしいのです。

また、自分にかかわってくれた全ての人、物、事に感謝の気持ちを持つことが大切です。感謝の気持ちを持つことで、一層誠実さが増すとともに、言葉にしなくても、所作、いわゆるその人の行動に心の有り様が表れ、信頼関係を築くことに繋がっていくのです。

北中で学んだ皆さんなら大丈夫。あなたたちなら、どんな道も切り開くことができます。そのためにも、「学び続ける」こと、「誠実と感謝を胸に刻む」こと、どこか頭の片隅においてもらえたら幸いです。

卒業生の皆さん、新しい時代を担うのはあなた達です。長井市、山形県、そして日本、世界を支える一人として、更に頼もしく成長を遂げてください。

「君たちが見上げる空は どこまでも続き 輝いています。同じ空の下どこに居ても 君たちは いつも繋がっています。」

皆さんの輝かしい未来に幸多かれと祈り、式辞といたします。

